

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	リズム論	授業形態/必・選	講義	必修
	Perセッション		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 5単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験17年 様々な楽器の演奏をこなし、自身のバンドにおいては国内外を問わずライブ活動を展開中。 数多くの大型野外フェスティバルにも出演経験あり。 劇団四季ミュージカルライオンキングに10年以上に渡り出演中。				
授業概要					
様々なパーカッションの習得を目指し、また様々な形態のアンサンブルを経験することで、より幅広いリズムパターンやサウンドの追求、プレイの柔軟性、アンサンブル力やタイム感の向上を養う。					
到達目標					
ドラマーとしてだけではなくパーカッショニストとしてもセッションに参加できるミュージシャンを目指す。 ・ハンドパーカッションの奏法の習得。 ・楽器の違いによるフレーズの違いを体感する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	様々なパーカッションの奏法レクチャー ・ハンドパーカッションに共通する基本的な奏法の習得 ・基本的な奏法を様々な楽器に応用し楽器の違いにより奏法を微調整する必要性を学ぶ				
【前期】 6～10回目	パーカッションを用いたリズムトレーニング ・世界の伝統的なリズムアンサンブルを演奏 ・オリジナルのフレーズでのトレーニング				
【前期】 11～15回目	ドラムセットとパーカッションでのリズムセッション ・世界の伝統的なリズムアンサンブルの中の1つをドラムセットに置き換えてアンサンブル ・あるフレーズに対して音楽的に相性の良いフレーズを創造して演奏する				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	ノリとは？グルーブとは？言語化できるレベルまでの理解と実践 ・言語化する為にこれまでの演奏を通してグルーブを体験する ・体験を繰り返すことにより自分の演奏によってその状態がいつでも創り出せるよう理解を深める				
【後期】 21～24回目	フレーズの解釈とアプローチ、歌うことの重要性と実践 ・そのフレーズのアクセントがどこにあるか、またそのアクセントを移動させるとどう感じるか ・フレーズの“アタマ”とは？				
【後期】 25～28回目	互いのリズム、呼吸を感じて演奏する為のディスカッションとオープンな姿勢について ・アンサンブルをする際の耳の使い方 ・自分の音と他の音をどのくらいの分量で聴くのか				
【後期】 29～32回目	ツインドラムでのアンサンブル ・これまで行ってきたパーカッションアンサンブルを参考にそのフレーズをドラムに置き換えて演奏してみる ・ドラムにフレーズを置き換えた際にパーカッションとの違いを把握しよりドラムに適したアンサンブルへアレンジする能力を養う				
【後期】 33～39回目 (後期試験)	ベース(講師)とドラムセット&パーカッションでのセッション ・ベースのフレーズに対して合うフレーズをドラムセットとパーカッションそれぞれで構築する ・ベースのフレーズを変化させた際にも臨機応変に対応できるような対応力も磨く				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	音楽のフレーズ1つ1つは全て我々が普段話す言葉と同じです。プリミティブなパーカッションの中にはそれを実感させてくれるヒントがたくさんあります。その言葉を使って会話をするようにセッションできるプレイヤーを目指しましょう。				
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	スティックコントロール		授業形態/必・選	実習	必修
	ドラムコンビネーション			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験12年 2009年個人での活動を開始、ライヴサポート、レコーディング等を主に著名アーティストとも共演。ヴォーカリストやシンガーソングライターのサポートドラマーとしても活動中。					
授業概要						
各種ジャンルにおいて需要が高まってきているツインペダルのフレーズを主眼に置き、ロックドラミングを中級とした観点からドラマーとして必要なセオリーの、テクニックとパフォーマンスの向上。						
到達目標						
1年次に学んだ基礎を元にした応用技術の習得。 ・楽曲に適した演奏をする為のテクニックを自分のプレイに反映させることが出来るクオリティでの修得。 ・演奏技術だけではなく見られる事を意識した演奏時のパフォーマンスの向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	ツインペダルを扱った奏法の説明 ・ツインペダル使用時の基本ドラミングフォームの説明 ・左足でもバスドラムを演奏するためのバランスのとおり方等、身体の使い方の解析					
【前期】 6～10回目	四肢のコンビネーション ・両手両足の交互打ち等のバランスを整える ・コンビネーションフィルの習得					
【前期】 11～15回目	各種連打 ・ツインペダルを扱ったリズムの細分化(4分、8分、3連、16分、6連) ・右スタート、左スタートの踏み分け					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	楽曲コピー① ・楽曲のアナライズと各種パターンの習得 ・ロックドラミングにおけるプレイスタイルやダイナミクス等の解析					
【後期】 21～24回目	応用リズムパターン①(変則的な足順) ・16キックのパターンを基に左足を足していき、オルタネートではない変則的な足順での奏法の解説 ・変則的な足順を使用しているフレーズの練習					
【後期】 25～28回目	楽曲コピー② ・楽曲のアナライズと各種パターンの習得 ・ロックドラミングにおけるプレイスタイルやダイナミクス等の解析					
【後期】 29～32回目	応用リズムパターン②(ポリリズム) ・コンビネーションの発展とポリリズム ・32分音符を織り交ぜたヘルタフレーズ					
【後期】 33～40回目 (後期試験)	楽曲コピー③ ・楽曲のアナライズと各種パターンの習得 ・ロックドラミングにおけるプレイスタイルやダイナミクス等の解析					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ツインペダルを習得出来るとフレーズの幅が広がります、そしてシングルペダル時のハイハットワーク等も安定感が増します。今まで苦手意識があった人や普段使わないからと嫌厭していた人もこの授業を通して楽しく学んでいきましょう。					
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記		選択アンサンブルII (前期/後期)		授業形態/必・選		実習		必修	
	アンサンブルII				年次		2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数		76回(1152単位時間)		年間単位数		4単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当									
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレールのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。									
授業概要										
<p>既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバルを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手の伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～③課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>										
到達目標										
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立つ。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>										
授業計画・内容										
【前期】 1～38回目	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲①～④ ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない(雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調などの案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い、譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>									
【前期】 39～40回目	<p>半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>									
【後期】 41～74回目	<p>アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。</p> <p>課題曲⑤～⑧ ・既成楽曲(課題曲⑤ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲⑥アップテンポ8ビート⇒課題曲⑦ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲⑧8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない(雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調などの案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い、譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。</p> <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。</p> <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。</p>									
【後期】 75～76回目	<p>半期のまとめ ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。</p>									
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)									
学生へのメッセージ	<p>楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝えるなどバンドメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場です。楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！</p>									
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面									

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWII (前期/後期)	授業形態/必・選	講義	必修
	DAWII		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲。MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマンビュレータとしての活動も行っている。				
授業概要					
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。					
到達目標					
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、Logic Pro Xの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ				
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解				
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成				
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習				
【後期】 23回目～34回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成				
【後期】 35回目～36回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)				
【後期】 37回目～38回目 (後期試験)	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても大事です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。				
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ジャンル別奏法実技		授業形態/必・選	実習	必修
	ドラムグループ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験30年 1994年メジャーデビュー。3枚のアルバムをリリースし、TV音楽番組にレギュラーバンドとして出演。現在はサポートドラマーとして数々のセッションやアーティストのライブサポート、レコーディングに参加している。					
授業概要						
一年次に習得した基礎をさらに昇華させ、グループという観点からより実用的かつテクニカルに発展させる。						
到達目標						
音楽家として活動していく為に必要な技術と精神の修得。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	一年次に行った基礎練習の再確認、アクセント移動、手足のコンビネーション、シンコペーション、ダブルストローク ※基本的に練習台で行う					
【前期】 6～10回目	クリック等をいれて、1～5週でやった確認事項のブラッシュアップ、リズムパターンもゴーストノートFill含め基礎的練習が反映されているか再確認 ウラクリックでのトレーニング、パターンへのはめ込み、シャウトトレーニングによるフォームの改善					
【前期】 11～15回目	曲の中で音色、アンサンブル、歌詞などを、他の音を意識しグルーブをだしていく練習。 現在流行中の生徒にもわかりやすい楽曲を使用しグルーブとは、一人で創れるものではなくアンサンブルや楽曲の流れの中で創造されていく感覚を掴む					
【前期】 16～22回目 (前期試験)	曲、リズムパターンを15週やった意思の上でスティックコントロールに戻る Allamericandrummerなどの教則本も使用し、ダブルストローク、パラディドルなどのルーディメンツをグレードアップした練習 ※クリックに対しても4月より正確な対応をするトレーニング					
【後期】 23～27回目	難易度の高い4Wayで鳴らしている音すべての精度を意識できるように訓練しキッドバランスを整える 特に左足、左手のHHワークやゴーストの手癖などを徹底して修復、ライドシンバルの音色も追求して雑音除去していく					
【後期】 28～32回目	グルーブの解釈が小さくまとまらないよう、Jazz、サンバ、ラテン、ボサ、レゲエ等ワールドサウンドに触れ、個人それぞれの持つ個性について見つけていく ラテンはソング、サンバはkickの練習として、Jazzは小音量のグルーブ練習として参考音源、映像をまじえ進行					
【後期】 33～37回目	テクニカルな曲やリズムの中でもグルーブが出せるようにトレーニング クリック練習、チューニングも含めて全体像で音楽を捉えるように11～15週でやったことの発展形を目指す					
【後期】 38～39回目 (後期試験)	二年間の集大成として、個々の個性を生かしたうえで授業内発表会、今後の活動の礎を探す 研究発表もあり他者の論理を理解し自己の論理を展開できる音楽人なる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	改めて基本を見つめなおし、その中に自分の個性をみつける。					
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ジャンル別奏法実技	授業形態/必・選	実習	必修
	ドラムインプロヴァイズ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験38年 単身ヨーロッパ各地でのギグに参加し、ジャンルに拘らず、ジャズはもちろんのことフュージョン、ロック、ラテンと幅広いリズムに精通するオールマイティ。自身のバンドのリーダーとして都内を中心にライブ活動を展開中。				
授業概要					
FeelとBeatの関係、奏法とノリの原点を学び、多くのジャンルに対応し、パターン化されないインプロドラムの実践レッスン。					
到達目標					
各種リズム、フィルイン、Verseへの対応。グルーヴの即感知。インスピレーションを持って即興性のあるドラミングを取得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	各種音符によるスティック・ウォーミングアップ ・シングル、ダブルストロークのウォーミングアップ ・各音符(4分,8分,3連,16分,6連,32分)のチェンジアップ、フラム、ラフ、バズロール				
【前期】 6～10回目	BeatとFeelの関係 / 8Feelメソッド ・4分音符をメインにFeelとBeatを分ける ・Rhythm inとFill in				
【前期】 11～16回目	8Feel/16Feel/6連Feelの実技。Rock/Pops ・メインリズムとインプロFill ・コンビネーショントレーニング				
【前期】 17～22回目 (前期試験)	2Beat/4Beatへの対応。Jazzと音圧比率調和 ・4分音符を土台としたJazzからのFeelとBeat ・Blues/Standard/Dixieland/Brush				
【後期】 23～27回目	Latinからのインプロアプローチ ・BossaNova/Afro/Rumba/Samba/Salsa ・インプロリズムとフィルイン				
【後期】 28～32回目	バラデイドルからのインプロアプローチ ・3連/16分/6連バラデイドルとコンビネーションソロ ・2Varse/4Varseの対応				
【後期】 33～37回目	スコアリーディングFusion/Bigband ・各種Feelからのパターンユニゾン ・オーケストレーションからのユニゾン ・アクセントへのインプロフィルイン				
【後期】 38～39回目 (後期試験)	アーティキュレーション実技。Jpop～アニソン ・インスピレーションエチュード ・contemporary rhythm、変拍子				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	感性を大事に自分のやりたい音楽を描ける様に。 誰もがDanceしてしまうリズムを打ち出そう。				
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	グループ変遷史		授業形態/必・選	講義	必修
	ドラマーセオリー II			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験19年 サポートドラマーとして、様々なジャンルの有名アーティストのライブ、レコーディングに参加。 ドラムの教則本を出版。					
授業概要						
1年次の内容をブラッシュアップし、ドラマーとして必要なあらゆる知識の習得を目指す。 ドラムセットのチューニング方法、楽器選び、世界で活躍するドラマーの奏法やスタイルを学ぶ。						
到達目標						
一ドラマーとして演奏ジャンルや音楽スタイルに合わせたドラムセットのチューニング、様々なジャンルの音楽性を吸収し自立したミュージシャンを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	前期の自身の音楽活動と到達目標に関するディスカッション ・イベント(ドラムパフォーマンス)について ・アンサンブル、DAW、音楽理論についての確認					
【前期】 4～8回目	チューニング① タムタム、フロアタム、バスドラムのチューニング ・均等張りと上下のヘッドの調整 ・音楽ジャンルによるチューニングの違いとマイクのりを意識したミュート方法 ・バスドラムのサウンドホールの空け方と経緯、アタック効果について					
【前期】 9～13回目	チューニング② スネアドラムのチューニング ・均等張りと上下のヘッドの調整 ・響き線(スナッピー)の調整と音楽環境によるヘッドの選択方法 ・音楽ジャンルによるチューニングの違いとピッチ、サステインに関する一般論について					
【前期】 14～22回目 (前期試験)	イベント(ドラムパフォーマンス)の演奏楽曲決め ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイルをアドバイス ・演奏動画を撮影し自身のプレイを客観視する					
【後期】 22～24回目	後期の自身の音楽活動と到達目標に関するディスカッション ・卒業後の音楽活動のシミュレーション ・アーティストとミュージシャンの相違について					
【後期】 25～30回目	ドラマー研究① 各ジャンル(ロック、ポップス)の教則、Live映像鑑賞、及び奏法説明、ディスカッション					
【後期】 31～35回目	ドラマー研究② 各ジャンル(ジャズ、ブルース)の教則、Live映像鑑賞、及び奏法説明、ディスカッション					
【後期】 36～40回目 (後期試験)	音楽で生計を立てる事の考察 ・請求書の書き方、確定申告と税金について ・卒業後の進路等のカウンセリング					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	幅広い音楽性と知識を身につけ音楽を楽しもう！					
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	チューニング講座	授業形態/必・選	講義	必修
	イヤートレーニング&スコア		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験34年。1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、様々なアーティストのバックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
相対音感及び読譜、PCでの楽譜作成ソフト『Finale』による譜面作成についての講義。					
到達目標					
単音、和音におけるインターバルの理解と相対音感の習得。楽譜作成ソフト『Finale』によるマスター譜、パート譜の作成技術の習得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	旋律聴音 (半音、全音、メジャースケール上のインターバル) 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認 ・五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。				
【前期】 6～10回目	旋律聴音 (3種類のトリックマイナースケール上のインターバル) 楽譜作成ソフト『Finale』の基礎操作方法。 ・組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方				
【前期】 11～15回目	旋律聴音 (その他のインターバル①) 『Finale』を使ったマスター譜の作成 (コーダ切れなし) ・リピートマークのみを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【前期】 16～20回目 (前期試験)	旋律聴音 (その他のインターバル②) 『Finale』を使ったマスター譜の作成 (コーダ切れあり) ・ダカーポ、ダルセーニョを使ったアンサンブル課題曲の写譜				
【後期】 21～25回目	和音聴音 (トライアド4種類 Maj、Min、Aug、Dim) 楽譜の作成、読譜に必要な基礎知識の復習、確認 (音符、休符の種類、各種記号など) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 26～30回目	和音聴音 (テトラッド Maj7、6th、7th) 『Finale』の基礎操作方法 (テンキーを使った音符のステップ入力) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 31～35回目	和音聴音 (テトラッド m6th、m7th) 『Finale』でのパート譜(ギター、ベース、ドラム)の作成(基礎編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
【後期】 36～40回目 (後期試験)	和音聴音 (テトラッド aug7th、m7th b5th、Dim7th) 『Finale』でのパート譜、TAB譜の作成(応用編) ・各自のアンサンブル課題曲の譜面作成				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	演奏、作編曲において、相対音感の習得、また読譜、スコアの作成は必須のスキルです。アンサンブルの授業、各自のバンド活動等とリンクさせて意欲的に取り組みましょう。				
使用教科書	担当講師によるオリジナル教材				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	REC実技/グループⅡ		授業形態/必・選	実習	必修
	エレドラDAW Ⅱ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>					
担当講師 実務経歴	実務経験2年 自身のバンド活動を行いながら、様々なアーティストのライブ、レコーディングに参加。					
授業概要						
エレドラの基本的な使い方と応用の仕方。ハイブリッドドラムにも発展させる。						
到達目標						
エレドラの基本から応用まで様々な可能性を知り、ハイブリッド等、アコースティックドラムの演奏にも役立つ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	エレキドラムの各部の名称、トップ・パネル/フロント・パネル/サイド・パネル/リア・パネル使い方、接続の仕方、デジタル V ハイハットの調整 ・内蔵のドラムキットの音色を知る ・エレキドラム内での録音					
【前期】 6～10回目	キット・カスタマイズ →ドラムキットのインストゥルメントをエディットする アンビエンスエディット→オーバーヘッドマイク・ルームマイク・リバーブを調整し臨場感のあるドラムサウンドを再現する					
【前期】 11～15回目	Logicの基本操作 ・ソフトウェア音源・オーディオ・MIDI・Drummerトラック ・オーディオレックの準備・エレキドラムとPCのアサイン・出力先					
【前期】 16～20回目 (前期試験)	2MIXのレックとマルチトラックレック→USBオーディオの出力先の設定 ・コンプレッサーとEQ ・宅録を可能にする					
【後期】 21～25回目	サウンドエフェクトをアサインする→演奏に導入する サンプリングパッドの基本操作・内蔵音源について					
【後期】 26～30回目	PAD EDIT ・Layer TypeやWAVの発音の仕方 ・ピッチ調整やfadeの有効					
【後期】 31～34回目	サンプリング ・サンプリングと編集 ・外部機器を用いてサンプリング ・実演					
【後期】 35～40回目 (後期試験)	アウトプット ・MFX・Master FX ・サンプリングパッドに外部パッド・トリガーのアサイン ・生ドラムとの融合について					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	「アコースティックドラム」と「エレドラ」両方の可能性を広げていきましょう。					
使用教科書	必要に応じてプリント等を配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。